

平成21年度 全員参加の地域づくり推進事業 取組結果

事業名	西川口B級グルメタウンのまちづくり
現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 西川口駅西口では、違法な性風俗店の排除に伴い200近い空き店舗が発生し、再生のための取組が行われてきている。 2 平成20年に埼玉県B級ご当地グルメ王決定戦を開催し、3万5千人の参加者を得た。
めざすべき方向性	空き店舗数の減、50万都市にふさわしいにぎわいの復活、都心への近接性を活かした生活利便性の向上
事業目的・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 街のイメージに特に影響の大きい路面階の空き店舗の減 2 「安全・安心」に直接影響を及ぼす違法な性風俗店舗数のゼロの維持
活動主体	埼玉県・川口市・商工会議所
主体ごとの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の取組： チャレンジショップ家賃補助（7店舗） ・ 川口市の取組： 環境浄化対策委員会を設置し、パトロールや清掃活動を実施 ・ 商工会議所の取組： 西川口再生会議を設置し、街づくりステーションを運営し、情報を発信

【県の取組結果状況】

H21年度に取り組んだ事業	チャレンジショップ家賃補助（7店舗）
上記事業について成果があった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジ店舗7店のほかに、飲食店が9店舗開店した。 （空き店舗数：H19年度52店舗→H21年度31店舗） ・ チャレンジショップをマスコミが取り上げたことで、物販のドン・キホーテ、惣菜屋、大学研究室が進出するなど、街の活性化が進んだ。

平成21年度 全員参加の地域づくり推進事業 取組結果

事業名	首都圏に輝く圏央道の魅力づくり（鶴ヶ島市）
現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 八王子や青梅で進む圏央道開発に対抗する埼玉の魅力発信が必要 2 農業大学校の老朽化対策（築40年以上）
めざすべき方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 武蔵野の緑を活かし首都圏から集客できる「圏央道の魅力発信」 2 鶴ヶ島市が進める緑地の創出／保全計画と一体化した土地利用
事業目的・内容	<p>地域の資源を活用した魅力ある地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 首都圏に残る武蔵野の緑を満喫コース（癒し） ・ 市民農園／サイクリングの体験コース（遊ぶ） ・ 安心安全な農作物の買い物コース（交流）
活動主体	埼玉県・鶴ヶ島市・高倉ふるさと協議会
主体ごとの取組	<p>◎県の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業大学校移転調査 ・ 跡地活用及び周辺地域整備の検討 <p>◎地域の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋敷林の保全 ・ 市民農園の拡充 ・ 工業団地の緑地拡大 ・ サイクリングロード整備

【県の取組結果状況】

<p>H 2 1 年度に 取り組んだ事業</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 農業大学校の立地整備に係る調査業務委託 (権利関係調査、開発可能性検討)・ 基本計画策定・ 「圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺地域整備分科 会」開催
<p>上記事業について 成果があった点</p>	<p>平成 2 1 年 1 1 月に開催された経営政策会議で方向性が決定された。 農業大学校の熊谷市への移転に伴い、移転候補先の環境調査等を行って、開発可能性の検討を進めることができた。</p>

平成21年度 全員参加の地域づくり推進事業 取組結果

事業名	環境にやさしいまちづくり（熊谷市）
現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 熊谷市では日本最高気温40.9℃を記録（H19.8.16） 2 ヒートアイランド対策推進宣言都市として、まちが暑くならない対策を実施
めざすべき方向性	「経済・生活・環境」が高い水準で調和した地域づくり
事業目的・内容	<p>エネルギー消費を低減するため、地域の顔ともいえる熊谷駅北口周辺（県道熊谷停車場線）を環境に優しい構造へ見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道の保水性ブロック舗装及びアーケード撤去 ・自転車レーンの設置
活動主体	埼玉県・熊谷市・熊谷商工会議所・地元商店街・地元自治会・ロードサポーター等
主体ごとの取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 熊谷停車場線整備事業（県、市、地元商店街） <ul style="list-style-type: none"> ・①保水性ブロック舗装 ②自転車レーンの整備 ③地元商店街などの協力を得て打ち水など実施 2 「あつさはればれ 熊谷流」プロジェクトの実施（市） <ul style="list-style-type: none"> ・熊谷駅前広場の冷却ミストの設置、熱中症予防情報発信などを実施 3 熊谷市中心市街地に関する各種検討 <ul style="list-style-type: none"> ○熊谷市道路空間整備推進委員会（国、県、県警、市、大学、自治会ほか） <ul style="list-style-type: none"> ・熊谷市中心市街地について整備主体が連携して自転車走行環境、バリアフリー、景観など道路空間の検討を行い整備方針を定める。 ○エコまちづくり事業（国、県、市、大学、自治会ほか） <ul style="list-style-type: none"> ・熊谷市中心市街地地区（123ha）において、ヒートアイランド現象緩和等の観点から検討を行い、都市環境改善に資する計画を策定する。

【県の取組結果状況】

<p>H 2 1 年度に 取り組んだ事業</p>	<ul style="list-style-type: none">① 自転車道等社会実験の実施（10/28～11/20）② 熊谷駅前通線整備検討会の立上げ③ 熊谷停車場線（熊谷駅～国道17号）の歩道の保水性ブロック舗装及びアーケード撤去
<p>上記事業について 成果があった点</p>	<ul style="list-style-type: none">① 社会実験の結果、約7割の人から安全性向上についての理解が得られた。② 検討会の設置により、地元の意見等が反映できた。③ 熊谷停車場線の整備を実施し、歩行者等の安全性の向上が図られた。